

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(中学生の部・南部会場)

1 日時 令和 7 年 8 月 6 日(水) 10:00~12:00

2 場所 埼玉県県民健康センター 中会議室

3 参加者 2 名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

僕の方で進行させていただきますので、話を聞かせてくださいね。簡単に自己紹介と、皆さんの意見、考え方について、最初に簡単にお話をいただいていいですか。

(A)

私の共学化に関する意見としては、賛成です。なぜなら、共学化にした方が、これから社会に出た時の男女の関わりって、すごく私自身で大切なものだと思っているし、それに、男子と女子で分けて、それでももちろんいいとは思いますが、男女共学にした方が、その分学べるものも多いと思うし、社会に出た時に、例えば会社などの先輩後輩とか、そういう時にも絶対に役に立つと思っている、だから共学化は絶対自分のためにもなると思うし、生きていく上で必要なことだと思うから、賛成と思っています。

(依田 高校改革統括監)

はい。ありがとうございます。

(B)

僕の共学化に対する意見としては反対です。

共学に行きたいなら、共学校に行けばいいと思うし、やはり男子校とか女子校ならではの良いところだってあると思うので、県で少しあった方が、絶対選択肢は広がると思うし、あとは、行きたい人も必ずいると思うので、反対です。

(依田 高校改革統括監)

はい。ありがとうございます。

賛成と、反対の意見が両方出てきて、お互いの考え方をこれからゆっくりとお話を聞いていきます。

まず A さん、学べるものが多いとおっしゃったけれども、共学で学べるものは、どういうことが学べると思いますか。

(A)

例えば私の学校では、男女でけんかになっちゃうこともあるんですけど、そのけんかからうまく異性の接し方とか学べるんじゃないかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

もう少し話を聞かせてもらっていいかな。

(A)

女子はこの人についていくみたいなリーダーが女子の中にいて、男子にもリーダー的な子がいて、その中で女子は女子のリーダーの子についていくから意見があって、男子も男子のリーダーの子についていくからその意見があって、それが合わない結構ぶつかっちゃうことが多いから、そこでけんかになっちゃったりすることがあります。

(依田 高校改革統括監)

男子と女子で、集団が分かれているのかな。

(A)

分かれてるところもあるし、男女関係なく仲良くしているところもあるけど、けんかになっちゃう時は、みんなリーダー的な子に気を使って、自分の意見を言えない子たちもいるからそうっちゃう。

(依田 高校改革統括監)

そういうことがあるんだね。ありがとう。

Bさんの学校にもそういうことはありますか。

(B)

あります。

(依田 高校改革統括監)

男子と女子で意見が分かれて、けんかになっちゃうことはあるかな。

(B)

あることはあるんですけど、そんなには多くないかな。

(依田 高校改革統括監)

男子と女子で意見が違うことはあるかな。

(B)

いや、ないです。

(依田 高校改革統括監)

Aさんは男子と女子で考え方が違うっていうようなこともあるのかな。

(A)

みんなが一緒の意見になる時もあるし、男子と女子で分かれちゃう時もあるし、女子と男子のグループと男子と女子のグループで分かれちゃうときもあって、いろいろパターンがあります。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、分かった。もう少しお話を聞くな。

男子と女子で、Bさんは別に意見に違いがあることはないとお話をしてもらったかと思うけども、男子と女子で考え方が違うことはないと思うかな、それともあると思うかな。

(B)

あると思います。

(A)

あると思います。

(依田 高校改革統括監)

女子はこういう考え方とか、男子はこういう考え方とか、そういうことがあったかな。

(A)

例えば、私のクラスであったことなんですけど、一人の子がちょっと転んで怪我しちゃって、それで、女子は保健室にすぐ連れていった方がいいよとなりましたが、男子は、先生をこっちに來させようって考えで、それで女子と男子で考え方が違うっていうか、発想っていうか、やっぱりそういう生物学的な感じから違うのかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

女子は怪我したら保健室に連れて行こうと思ったけど、男子は先生をここに連れてくればいいのかと言ったんだね。

Bさんにはそういう経験はあるかな。

(B)

その怪我の具合によります。あと、意見の違いは、今まで生きてきた経験とか、周りの環境とかに左右されると思うので、その学校がたまたまなのか、低確率で男子と女子で別れちゃったのかは分からないと思います。

(依田 高校改革統括監)

Bさんはそれは男とか女ではなくて、一人一人の経験とか、考え方の違いによるんだ、個人個人の違いだと思うということだね。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

Aさんはどう思うかな。

(A)

経験とか言われたら、それも多少関わりはあるかもしれないけど、もとはやっぱり女子と男子で考え方は違うんじゃないかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

女子と男子で考えが違ったりすることもあるのかもしれないし、一人一人で経験とか、生活が違うから考え方が違うということもあると思います。

今度は、授業であつたり、学校行事であつたり、学校生活が男女で違った環境があつた方がいいと思いますか。男子校と女子校と共学って意味ではなくてね、男の人と女の人と変わらない学校生活がいいと思いますか。それとも男の人は男の人用があつた方がいい、女の人は女の人用があつた方がいいと思うかな。

(A)

私はやっぱり同じ教育環境の方がいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

Aさんは、男子と女子で考え方が違うところもあるとは思いますが、考え方が違ったとしても、学校の生活は同じ方がいいという考え方だね。

Bさんはそこはどう思うかな。

(B)

同じがいいって人もいますし、違った方がいいとか思ったりする人もいると思います。

(依田 高校改革統括監)

Bさんはどっちかな。

(B)

体育とかなら別とかだし、国語とか数学とかだったら、別に一緒でもいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

机に向かってする勉強は一緒でもいいけれど、体育とかは、別の方がいいという考え方なのかな。

(B)

はい。そうです。

(依田 高校改革統括監)

それはどうしてなんだろう。

(B)

体つきとか違うじゃないですか、筋肉量とか。それで、運動能力とか人によってもそれぞれだし、男子の方が動ける人が多いと思います。

(依田 高校改革統括監)

男の人と女の人で、筋肉量とかいわゆる体格とかが違うから、そういうものを使うときには分けた方がいいと思うということかな。そこは A さんはどう思うかな。

(A)

筋肉量が違うけど、でもそこからいろいろ学べる技術とかがあったりすると思うので、一緒の方がアドバイスとかもしやすいんじゃないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

2 人の考え方が違ったね。お話を聞いてきたけれども、県教育委員会がどう考えてるのか、お話をします。

県教育委員会は、男の人と女の人で、考え方が違うとか、体格が違うとか、そういったものは、あることも、ないこともあるだろうし、いろいろだと思います。皆さんの考えと一緒にしたいと思います。

ただ、県教育委員会は、男の人と女の人で違う勉強とか違う学校生活を送ることに、積極的な考え方は持っていません。男の人と女の人が、一緒に協力をしてこれからの社会を生きていこうとするときに、違う教育活動をするのはあまり良くないと思っています。男の人でも女の人でも同じ勉強を、同じ学習をしてもらいたいと思っています。分けて学ぶよりも、一緒に学んだ方が、同じ内容の勉強ができるというように考えています。ここは学校ではないから、県教育委員会が言っていることが正解ですとか、このような考えにしましょうということではなく、皆さんは皆さんの考え方で、お互いの考えを意見交換をしながら、理解を深めていきたいという場なので、決して私の言うことが正しいと言われていると捉えないでください。

それを前提にして、B さんが最初に話した、男子校、女子校にも良いところがあるという話について、どういうところがあると思うかな。

(B)

女子ではないんで、ちょっとそこは分からないですけど、共学校だと、異性に気遣いとか気にしちゃうじゃないですか。でも男子だけだと全力でツツコミとか体育祭とかも楽しめるし、価値観とかも合いやすいと思う。なんか男子校だったら、共学よりは楽しめるんじゃないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

男子だけの方が合いやすいということですかね。異性があると気を遣ってしまうということなのかな。

(B)

はい。僕の友達にも男子校に行ってる人がいて、その人は共学の中学校よりも、高校の方が楽しいって言ってたんです。

(依田 高校改革統括監)

それは異性を気にしなくていい、気にしない方が楽しいってことなのかな。

(B)

気が軽いついていうか。

(依田 高校改革統括監)

それが男子校の良いところだと思うんだね。

Aさんはどう思うかな。

(A)

気が軽いのは、それは良いと思うんですけど、それは男子校にしかない良さなので、それはいいと思うんですけど、やっぱり将来とかを考えると、同性だけだとももちろん社会は成り立たないし、それだと社会に出た時にすごく気が重い、どうやって話していいんだろうみたいな、どうやって関わったらいいんだろうみたいな、困っちゃうときがあるかもしれないので、やっぱり共学にして、それを学んで社会に出た方がいいんじゃないかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

将来のことを考えると、同性だけだと困ってしまうのではないかということだね。Bさんはどう思うかな。

(B)

女性と関わりとかはあるとは思いますが、男女の関わり方も大切だとは思いますが。でも、やはり学生とかでしか味わえないような体験とかあるじゃないですか。だからその経験もなくしてほしくないっていうか、そっちの方が。たぶんおじいちゃんとかになっても関わり方は学べると思いますので、今しかできないことをやりたいって思うんです。

(依田 高校改革統括監)

二人ともとても良い意見を出してもらって嬉しいですよ。

高校生にもアンケートを取ったのだけれども、伸び伸びと自由にという意見は、男子校にも女子校の方にもありました。Bさんがおっしゃったことは、高校生のアンケートで同じ意見がたくさん出ていましたね。

一方で、Aさんが言った将来男女が一緒に生活していく中で、高校生活を一緒に送った方がいいという意見もたくさんありました。両方の意見はアンケートでも出てきていて、今いろいろお話を聞いて、どちらもそのとおりだと思います。

県教育委員会は、先ほどAさんが気が軽いと言ったように、男の人だけ、女の人だけで盛り上がることの中に、もしかしたら、男の人と女の人を区別をして見ようとしている気持ちが入っているとそれは良くないのではないかなと思っています。これは、男女別学校だけの話ではなくて、共学校も同じなのかなと思っています。男の人はこうとか、女の人はこうとかと思ってしまうと、女の人、男の人はこういう特徴があるというように思ってしまうと、性別の特徴に合わせて例えば、昔だったら家庭をしっかり守っていくのが女の人に合った生活の仕方なのではないとか、外で仕事をして、お金を稼ぐのが男の人にとって合った生活なのではないとか、男の人に合った仕事とか、女の人に合った仕事とかというようになるのは、これから、男の人と女の人が一緒に協力しあって、社会を築いていこうとするときに、あまりよくないことなのではないかなと思っています。共学校でも、男子校や女子校も、女の人と男の人の違いがあるから、それぞれの役割分担があった方がいいとなると、今の県教育委員会の目指している社会に対しての学校教育のあり方に、ちょっとずれてきてしまうというように思っています。

県教育委員会は男と人と女の人の違いがないと言っているのではなく、男女問わず生徒一人一人の違いに合わせて、その人に合った勉強を、その人に合った個性を中心に考えた方がいいのではないかなと思っています。

ですから別学校がね、楽しくて、全力で物に取り組めるのは、とても良いことだと思う。男だから女の人とは違うからと、役割分担があるというようになっていくことには気をつけた方が良い。それは共学校も A さんの話にあったように、気をつけなければいけないことがあると考えています。皆さんの意見はあるかな。

(A)

やっぱりその区切りをつけちゃうっていうのは、人を女子だからこうだとか、男子だからこうだと思って人とか、私の学校にもいるので、その人の個性をちゃんと見てあげないと、やっぱり社会に行った時にうまくいかないこととか多くなっちゃったりするのかなって思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。B さんはなにか思うことあるかな。

(B)

役割分担とか言ってたんですけど、それが良いっていう人もいますし、嫌だっていう人もいると思うんですけど、それならそれでいいと思う人同士で価値観が合うから、そこで暮らせばいいと思いますし。これは別に無くす意味ではないと思います。

(依田 高校改革統括監)

人それぞれの考え方があっていいという考え方だね。そのとおりだね、人に考え方を強制することではないと思います。

県教育委員会は、男女の役割分担ではなくて、人それぞれの個性に応じて、勉強をしていく学校生活を送ってもらいたいと思っていますということなので、一人一人がどう考えるのかは、B さんがおっしゃるとおりだと思っています。

B さんは、男女の役割分担はあると思うかな。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

A さんはどう思うかな。

(A)

やっぱりまだそこは、男女の役割っていうのはあると思う。

(依田 高校改革統括監)

例えば、どんなところに役割分担があると思うかな。

(A)

学校だと、例えば重いものとかは力のある男子が運んだり、女子は細かいところをやったりみたいなの。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。Bさんは、今Aさんが言ったようなことはあるかな。

(B)

あります。進級して新しい教材とか持っていく時に、「ちょっと男子」とか先生が呼んだりするんです。

(依田 高校改革統括監)

重いものとか軽いものというのはあるんだね。

学校生活の中で、重いもの軽いものっていうのはあったけれども、学校行事であるとか、日頃の勉強の中で、男女で役割分担がされているようなことは、みんなの学校はあるのかな。

(B)

ないです。

(依田 高校改革統括監)

男子生徒も女子生徒も同じことをやっているんだ。

(B)

リーダーとか班長とかも、ちゃんと女子も男子もいます。

(依田 高校改革統括監)

例えば体育祭、運動会とか、文化祭とかでも男子生徒と女子生徒で役割分担は特になくて、同じことをやっているのかな。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

先ほどBさんは体育は違う方がいいのではないかと、筋肉量とかが違うからと言ったけど、体育祭の種目とか、そういったところはどうかな。

(B)

準備とか種目はそんなに関係ないと思います。

テント張りとかなら男子が行っています。

(依田 高校改革統括監)

テント張りとかは男子の役割なんだ。その時女子は何をやっているのかな。

(B)

釘打って線引いて、区画を作ったり。あとは飾りつけとかです。

(依田 高校改革統括監)

区画を作ったり飾りつけとかね。学校行事とかではなくて、学校生活の中で重いもの軽いものということがあるということでしたね。

Aさんの学校は、学校の行事であるとか、授業であるとか、そういったところで役割の分担みたいなものに気付くことはありますか。

(A)

特になくて、行事とか、みんなで協力して頑張ろうみたいな。

(依田 高校改革統括監)

文化祭はまだ経験していないか。体育祭の中でも男女で同じ種目をやっていますか。

(A)

はい。

(依田 高校改革統括監)

Aさんはどう思うかな。体育祭は男女で違う種目があった方が良いと思うかな。

(A)

ない方がいいと思う。

(依田 高校改革統括監)

ない方がいいと思うのね。Bさんはどう思うかな。

(B)

あってもいいと思いますし、なくてもいいっていう人もいると思う。

(依田 高校改革統括監)

Bさんはどっちかな。

(B)

僕は、なんでもやりたいので同じか、別に競技数に変わりがないなら、そこはなんとも言えないです。

(依田 高校改革統括監)

例えば女子はこういうことやりたい、男子はこういうことやりたいということがあるのかな。

(B)

女子でもサッカーやりたいとかいう人もいますし。男子でも絵を描きたいとか、運動系じゃなくてもいますんで。

(依田 高校改革統括監)
A さんも同じ考えかな。

(A)
はい。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会も皆さんと同じです。体育は別という話もあります。体力とか体格とか、平均を取れば男女で違いがあるのかもしれないけれども、人それぞれの方が違いがあるのではないかと考えています。個人個人の差の方が大きいのではないかと考えています。

男の人、女の人という違いもあるけれども、それよりも一人一人の持っている特徴の方が大きいと考えています。高校によっては持久走大会で、男の人も女の人も、それぞれ自分の体力とか自分の目標に合わせて、走る距離を選ぶ学校もあったり、いろいろ工夫を凝らしています。県教育委員会も、性別でやることを分けるのではなくて、一人一人自分に合った、今持久走大会の話をしたけれども、運動能力に合ったことをやりましょうという考えを持っています。そこは勉強もそうだと思っています。

昔は、男の人は数学とか理科とかが得意で、女の人は英語とか国語とかが得意と言われていた時期がありました。今でもそう思っている人もいるのかもしれないけれども、県教育委員会は、それがあるとかないとかよりも、一人一人の、個人個人の得意なところを伸ばして、苦手なところを克服していくように考えればいいと考えていて、男の人とか女の人で得意とか苦手とかを考えて、学校の教育活動を考えようと思いません。そこは、皆さんと同じ考え方なんだと思います。

【休憩】

(依田 高校改革統括監)

ここから話を変えて、少し説明をさせていただきます。

県教育委員会は長い間、男女共学を推進をする考え方を持ってきました。考え方自体は去年からではなくて、何十年も昔から、県教育委員会は共学を推進してきたんです。それは、男の人と女の人で違う教育をするのではなくて、同じ教育をするためには一緒にの学校で勉強した方が、同じ場所で、同じ時間に勉強した方が同じ勉強になるという意味では、皆さん分かってもらえると思う。

実際は今県立高校 137 校のうち、12 校男女別学校が今でもあります。それは、先ほど B さんが言ったように、別学校は全力で生き生きと学校行事に取り組めるとか、伸び伸びと生活できるとか、異性がちょっと苦手だな、緊張しちゃうなっていうような人が安心できるという意義があるなど、いろいろそういった意見が生徒にも保護者にもあって。そういうことを考え、県教育委員会は、男女が違う教育をするのではなくて同じ教育をするから、一緒に学んだ方がいいと考えているのだけれども、それぞれの学校で生徒や保護者、卒業生や関係者の意見もあるだろうから、地域の状況も踏まえて、各学校で考えてくださいということとし、学校が主体で考えてきたんです。

これまでも、何校かは別学だった学校が共学になったりもしてはいるけれども、学校が主体になって考えてきたため、県教育委員会が学校に、別学から共学になりなさいということは今まで

言ったことがなかった。去年からは、これからは学校ではなくて、県教育委員会が主体になって考えていくようにしましょうと、方針を変えました。

なんで県教育委員会が、主体的に考えるようにしたのかなのだけれども、そこは今までの話と違う話になるのだけれども、今後、子供の数が減っていくということが原因としてあるんです。

少子化という言葉聞いたことがあると思うのだけれども、これから中学校の卒業者の数がどんどん減っていくことになるんです。今までも減ってはきていたけれども、ここからさらに大きく中学校の卒業生数が毎年毎年減っていくことになります。みんなどのくらい減るか考えたことあるかな。

Bさん、例えばこれから10年とか15年後とか、中学校3年生の卒業生数がどのくらい減ると思うかな。割合でも、人数でも。

(B)

200人くらい。

(依田 高校改革統括監)

Aさんはどのくらい減ると思うかな。

(A)

700人くらい。

(依田 高校改革統括監)

市でいうと近いものがあるかもしれないね。事務局の人に説明してもらいましょう。埼玉県と、南部地域について説明してください。

(事務局)

こちらの資料は、県教育委員会で作成しているものです。公立の中学校等卒業生数になりますが、令和6年の3月から、令和20年の3月までの14年間を比較しています。

令和6年3月の卒業予定者数は約58,900人となっていますが、令和20年3月では約44,100人に減りまして、約14,800人埼玉県としては減少することが見込まれているという状況です。

地域別に見ていきますと、「南部・さいたま・県央」という地域では21,264人から、17,950人になりまして、3,314人の減少が見込まれています。

割合で言いますと、埼玉県全体では約25%減ります。今申し上げた「南部・さいたま・県央」地域で言いますと、約16%が減少していくという状況になります。以上です。

(依田 高校改革統括監)

皆さんのイメージと比べてどうだったかな。県教育委員会は、これから中学生が減って、高校に入学してくる人が少なくなることは本当に大変なことだと思っています。県立高校は137校あるけれども、約25%子供が減るから、137校の25%の学校を減らすと単純に考えているわけではないけれども、多く学校を減らさないといけなくないと考えています。

みんなの近くの学校や、行きたい学校がなくなるのは、これはよくないことだとは思っているけれども、ただ一方で高校は、小学校とは違って、なかなか小さな学校が残せないということがあるんです。

みんなも中学校に入って、小学校と違うと感じたのは担任の先生が全部の教科を教えてくれなくなったことでしょう。数学の先生がいたり、英語の先生がいたり、社会の先生がいたり、理科の先生がいたり、教科によって先生が変わるよね。高校になると、さらにたくさんの教科に分かれてくるんです。そうすると、学校の先生をたくさん置かないと、専門的な学びは難しい。英語の先生が数学を教えたり、数学の先生が国語を教えたりは各教科の専門性が高くなってくると難しくなってくる。それぞれの教科を教えてもらう先生を各学校に配置しないとダメになってくるでしょう。そうすると、高校だと 50 人とか、場合によっては 100 人とか、本当にたくさんの先生が必要になるのです。法律で、クラスの数によって、先生の数も決まっています、一定の規模のクラス数を学校に置かないと、それだけ専門性のある先生を配置できなくなってしまう。校長先生と教頭先生と担任の先生でというわけにはいかない。そうするとたくさんのクラスがないと先生が足りなくなってしまうんです。

学校の規模が小さくできない、一定の規模の学校を維持しようとする、学校の数を減らさないといけなくなってしまうのはみんな分かるかな。そこで、再編整備と私たちは言いますが、高校の再編整備を進めようとしてるんです。

また、学校の数を減らそうとした時に、次に何が起こるかということ、高校は、高校によって学びに違いがあること。農業高校、工業高校、商業高校で勉強すること、ほかにもいろいろあるけれども、大きく学んでいる内容が違います。それは、何を学びたいか、将来どういう仕事に就きたいかを考えて、普通科高校に入りたい人もいれば、農業高校に入りたい人もいて、工業高校にも。そうすると、みんなの住んでいる地域は比較的人口が多いところだから、高校が周りにたくさんあるけれども、そうでないところの人たちも、農業も勉強したい人もいるし、工業が勉強したい人もいるし、普通科高校で勉強したい人もいるし、埼玉県に住んでいる中学生が、自分が学びたい学びができる学校を、それぞれ残していかなければいけないんです。

そうすると県教育委員会は、どの地域にどの学校を残すかを、バランスよく、この地域にも農業高校が必要だ、この地域にも商業高校が必要だ、工業高校も普通高校も必要だ。というふうに考えて、同じような学びをしている似たような学校については、例えばA校とB校が同じような学びをしている学校だとすれば、ここは一緒にして新しい学校にして、学びの選択肢が男の人も女の人も、地域によっても、あまり差がないようにしていかなければいけないと思って、再編整備を考えています。

そうした時に、今までは、共学化は学校が自分でよく考えてください、将来の学校の学びを考えた時にどうあるべきか考えてください、地域の皆さんや生徒などの意見もしっかりと聞いてくださいということで学校が中心にやってきたけれども、これからは県教育委員会がこの学校とこの学校は一緒になってもらって、新しい学校にした方がいいなどと考えないといけなくなってくる。

さらに、高校に行って勉強したいという内容も、今までとだいぶ違うようになっていくと思っています。例えばAIとかね、コンピューターとか、今まで以上に学びたい子供が増えてくると思っているのだけれど、そうすると情報を中心に学ぶ学校も必要だとか、あとは、定時制や通信制などの自分のライフスタイルにあった学校に行きたいとか。ほかにも、海外の大学に留学する際に受験資格が得られる学びがほしいとか、中学生と高校生と 6 年間を通じたカリキュラムで学んでいきたいとか、いろいろな学びがしたいという中学生のことも考えなければいけないと思っています。学校の数は減る一方で、いろいろな特色のある学校は逆に増やしていかなければいけないとなった時、今までの学校を変えていかなければいけない。

そうした時に、各学校で考えてくださいねというのではなくて、県教育委員会が責任を持って考えないといけない。別学校と共学校どちらも同じように、もしかしたら、二つを一つにしないと

いけないこともあるかもしれないし、1校であっても、違う学校にしないといけないこともあるかもしれない。新しい良い学校ができましたという時に、男の人と女の人どちらかしか入れない学校は、県教育委員会は作れないと思っています。

男の人も女の人も両方入れる学校にしないといけないと思っていて、もしかすると、共学校同士もあるけど、男子校と女子校もあるし、男子校と共学校、女子校と共学校ということもあるだろうし、男子校1校だけでも新しい学校にしようとした時には、その学校も共学校にならないといけなくなる可能性もある。男の人と女の人が教育機会の均等と言うのだけれども、公平に学びの選択肢を選ぶようにしていくために、県教育委員会が考えないといけなくなったと思って、去年方針を変えたんです。

去年、これからは県教育委員会が主体になって考えていきますと切り替えたんです。男女共学の推進は、県教育委員会は元々考えていたけれども、ただ主体が今までは学校で、去年からは、県教育委員会が主体的に考えていく方向にしたんです。

今日、皆さんと意見交換をしたい内容は、以上だけれども、今日振り返って、最後一言ずつ皆さんからお話伺って終わりにしたいと思います。じゃ、Aさんからどうぞ。

(A)

今日はすごい共学化についてのことを深められたと思いました。私は共学化に賛成で、これからの社会を生きていくために必要だと思っていて、それをもっと深く知れたっていうか、県教育委員会が思っていることをすごく知れたことがすごい学べて、とても良い時間だったなって思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとうございました。はい B さん。

(B)

この意見交換会で共学の良さとか、県教育委員会の考え方だったりとか、自分の考えとかが深められて良かったと思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。出井さん何かありますか。

(出井 県立学校部副参事)

本当に、様々な意見ありがとうございました。皆さんがこれから高校に進学されると思いますが、どの学校も良い学校にしていきたいと思っています。子供たちと一緒に、教育全体として様々考えていかなければいけないと思っています。

今日いろいろとお話しいただいて、自分の意見をしっかりお持ちだなと思って聞いていました。今日は男女共学についての話ですけど、もしかしたらこれから社会に出て仕事をしていく上で、いろいろなところに課題があると思うんですね。そこに対応できるような高校を作っていくというのは、社会に近い高校としての使命だと思っているので、どの学校の校長先生もしっかり今考えています。

学びの部分は差異がないように県教育委員会としてしていきたいなと、子供たちにとってどこに行っても公教育として、しっかりと学べる高校という形を作っていきたいなと思っているので、いろいろな意見をいただき、ありがとうございました。

(依田 高校改革統括監)

はい、今日は本当にありがとうございました。皆さんの意見を聞いて、大変こちらでも考えを深めることができたと思っております。いただいた意見については、最初にお話したように、県教育委員会全体に共有して、今後の事務の参考にさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。以上で終わります。